

2020年度事業計画 ＜重点方針と施策＞

2020年6月6日

総会資料

特定非営利活動法人人間中心設計推進機構

(HCD-Net)

新たな中期目標(2020-2021)

- 1.「HCDを活用すべき人達・コミュニティとの連携」に向けた関連分野から注目の集まるコミュニティ形成
- 2. 機構組織運営の一層の透明化と永続的な活動に向けた基盤づくり
- 3. 事業および運営のメンバー・スタッフの補強と育成
- 4. 個人会員および賛助会員の満足度の向上
- 5. 各種業界や各種組織におけるHCD専門職としての地位の確立

新たな中期目標(2020-2022)の具体策

- 1. 「HCDを活用すべき人達・コミュニティとの連携」に向けた関連分野から注目の集まるコミュニティ形成
 - ・AWARD活動の継続と発展
 - ・情報発信(各種イベント、ウェブ、ソーシャルメディア)の拡充と各種研究活動(投稿・掲載論文、発表論文、SIG活動)の活性化
 - ・各種コミュニティとの連携・未来を見据えたコミュニティへの貢献
- 2. 機構組織運営の透明化と永続的な活動に向けた地盤づくり
 - ・事務局の補強・強化と支援体制の確立
 - ・事業の収益化の検討と施策の実施
 - ・公的法人格化(ex. 公益社団法人・一般社団法人)に向けた検討の開始(3年内を前提)
- 3. 事業運営メンバー・スタッフの補強と育成
 - ・各事業部の活動を担う主力メンバーの補強と育成
 - ・次世代を担うメンバーの開拓と活動環境の整備
 - ・後進の育成と業界を支えるエキスパートの再結集
- 4. 個人会員および賛助会員の満足度の向上
 - ・HCD専門家認定者の受験者数の健全な拡充
 - ・HCD正会員・学生会員の増員と会員メリット策の強化
 - ・HCD賛助会員の増員と賛助会員メリット策の強化
- 5. 各種業界や各種組織におけるHCD専門職としての地位の確立
 - ・HCD基礎知識体系(HCD基礎スキル認定活動成果)の整備と各種業界への発信・調整
 - ・HCD倫理綱領の検討・確立と情報発信
 - ・行政・自治体から公的な認知と法的な保護の獲得

2020年度のHCD-Netの活動方針: 重点課題

●前提: 各事業部・委員会・センターの自主的で活発な運営と動的な連携

●1. 「HCDを活用すべき人達・コミュニティとの連携」に向けた関連分野から注目の集まるコミュニティ形成

- ・HCD AWARD 2020の継続開催の実現とエントリー数の増加、注目度の向上
- ・情報発信の場としてのHCDフォーラム2019、各種イベント(HCD-Netサロン、ET/IoT2020 人間中心フォーラム、教育関連セミナー、ビジネス支援関連セミナー・談話会、その他)の開催と参加者数の増加、注目度の向上
- ・ウェブやソーシャルメディアを通じたコンテンツの拡充と恒常的な発信
- ・研究発表会を通じた研究論文(投稿論文、掲載論文、発表論文)の増加とSIG活動の活発化
- ・HCD専門家をビジネス支援するための関連団体との連携、各種支援ツールの開発と運用
- ・関西や東海を中心とした地方での活動の活発化と各種事業部との連携、他地域の開拓
- ・各種コミュニティ向けのイベント、子ども向けのイベントなどへの参画と貢献

●2. 機構組織運営の透明化と持続的な活動に向けた地盤づくり

- ・事務局管理業務および諸活動サポート業務のマニュアル化
- ・情勢からの要請によるオンライン会議の運用促進
- ・事業の収益化と公的法人格化の検討WGの発足と検討開始

●3. 事業運営メンバー・スタッフの補強と育成

- ・各事業部、委員会、センターの活動メンバーの一層の開拓と育成
- ・各種コミュニティにおけるHCD関連領域のプロの個別勧誘と参加メリット策の検討
- ・従来のHCD-Net関係者によるHCD-Net活動への再参加勧誘と促進策の検討

●4. 個人会員および賛助会員の満足度の向上

- ・HCD専門家のメリットの強調とビジネス支援テーマの開発
- ・会員メリット策の検討とプロモーション
- ・賛助会員メリット策の検討とHCD-Net関係者からの勧誘活動の強化

●5. 各種業界や各種組織におけるHCD専門職としての地位の確立

- ・HCD基礎スキル認定のHCD基礎知識体系の衆知とその各種団体・業界へのプロモーション
- ・HCD倫理WGによる議論の開始と発展
- ・HCD-Netリーダー層による行政や自治体へのはたらきかけ

2020年度の重点方針と重点実施項目

研究事業部

2020年度重点方針

- 機構誌への投稿論文数と掲載論文数の増加を図る。
- 研究発表会における発表論文件数の増加を図る
- SIG活動の活性化とSIG活動の成果の発信を図る。
- 研究事業部の組織強化を図る

2020年度の重点実施項目と目標

- メンター制度の試行, 実施(目標:研究の内容は論文に値するものの, 執筆力に欠けるために論文として掲載が叶わない論文に対して, 執筆のサポートを行う制度を試行し, 制度化を目指す)
- 前年度に引き続き、論文執筆経験の少ない方向けに論文執筆講座を実施する。
- 前年度同様研究発表会を年2回開催するとともに、年間発表件数を50件に増加させる(2019年度33件)。
- 前年度同様機構誌を年2回発行し、掲載論文数を10編(2019年度年2回発行, 掲載8編(査読付き論文3編))に増加させる。
- SIG活動の活性化を図る新たなサポート案を立案するとともに、活動成果を研究発表会、機構誌のいずれかを通じて、定期的に発信する(年度中最低2回)。
- 研究事業部の活動の中心となるべく新たなメンバーをリクルートする。

中期計画(2020-2022年度)

研究事業部

重点方針

研究事業部では人間中心設計に関する研究活動の活性化を図ることを中心的目標として、

- 機構誌への投稿論文数及び掲載論文数の増加
- 研究発表会における発表論文件数の増加
- SIG活動の活性化とSIG活動の成果の発信
- 研究事業部の組織強化

を図る。

重点実施項目と目標

- メンター制度の試行、実施
- 論文執筆経験の少ない方向けに論文執筆講座の継続
- 研究発表会の発表論文の機構誌論文への推薦制度の試行、実施
- SIG活動の活性化を図る新たなサポートの立案、試行
- SIG活動の成果発信の強化
- 事業部の新たなコアメンバーの補強、育成

2020年度の重点方針と重点実施項目

教育事業部

2020年度重点方針

- ◆ HCDに関する知識の継続的提供
 - ・ 継続可能とする方法を検討しながら、実践
- ◆ オンラインセミナーの活用で学習機会の拡大
 - ・ 効果的な方法を検討しながら、実践

2020年度の重点実施項目と目標

- ◆ HCDの基本についての体系的セミナー実施
 - UXデザインについて体系的に学べるセミナー(オンライン)
 - HCDコンピタンス発揮のために必要な知識に関するセミナー
- ◆ HCD普及・啓発活動
 - 講師拡大WGの教材を利用したHCD入門セミナー
 - 地域の特性を考慮したセミナー(東海支部)

中期計画(2020～2022年度)

教育事業部

重点方針

- ◆ HCDに関する知識の継続的提供
- ◆ オンラインセミナーの活用で学習機会の拡大
- ◆ 地域の状況に応じたセミナー、イベントの企画・運営・サポート

重点実施項目と目標

1. HCD入門セミナーの定期開催のために、実施方法を手順化する
2. UXデザイン連続セミナーをいろいろな講師が実施できるようにするために、講座の「エッセンス」を明確にする(教材&手引書のようなもの?)
3. オンラインセミナー継続実施のために、提供プラットフォームなどを含めて実施方法を手順化する
4. 東海支部独立運営(2021年度)のためのサポート(2020年度)
5. 関西・東海以外の地域拠点でのHCD普及活動の定常化(2022年度)

中期計画(2020～2022年度)

教育事業部

重点実施項目と目標

1. HCD入門セミナーの定期開催のために、実施方法を手順化する
2. UXデザイン連続セミナーをいろいろな講師が実施できるようにするために、講座の「エッセンス」を明確にする(教材&手引書のようなもの?)
3. オンラインセミナー継続実施のために、提供プラットフォームなどを含めて実施方法を手順化する
4. 東海支部独立運営(2021年度)のためのサポート(2020年度)のビジョンの明確化
海地区での活動実績まとめ、フォーラム報告
・東海支部
・2019年度までの東
5. 関西・東海以外の地域拠点でのHCD普及活動の定常化(2022年度)
6. 初心者から「次のステップ」に行くためのセミナー(東海支部)
+ α を含むセミナー4つ以上開催
・手法だけでなく

2020年度の重点方針と重点実施項目

広報社会化事業部

2020年度重点方針

- アワードを活用した効果的な広報活動
 - 2019年度リブートしたアワードをさらにブラッシュアップする
 - 自律的な施策実施:2019年度に動き出した企画を効率的に運用し改善

2020年度の重点実施項目と目標

- HCD-Net コミュニケーション施策実施
 - HCD/UXなんでも相談室(堀口)
 - ET/IoT2020 人間中心フォーラム実施
 - HCD倫理WG開催
- HCD-Netサロン
 - 6回の開催を予定
- アワードの実施
 - 応募数の増加
 - 応募内容・審査結果の効果的な公開・認知拡大
- 広報マテリアルのアップデート
 - アニュアルレポート(協阪)
 - ケーススタディコンテンツ作成(飯塚)

2020年度の重点方針と重点実施項目

広報社会化事業部

2020年度サロン予定

4月_アワード記念サロン(堀口):2月延期分

6月_HCDと参加型デザイン(黒沢)

8月_HCDとビジネスデザイン(在家)

10月_HCDとサービスデザイン(丸谷)

12月_HCDと倫理(長谷川)

2021年

2月_予備

2020年度

広報社会化事業部・Webワーキンググループ(HCD-Net Webサイトの舵取りを担当)

重点方針

- インフラの安定化
- 新規コンテンツの追加
- 組織として整える(事務局との連携、WGメンバーの拡大)

重点実施項目と目標

- インフラの安定化
 - サイトの規模にたいして、サーバー環境などが限界がきている
- 新規コンテンツの追加
 - とくに2020年度は広報社会化事業部から多くコンテンツがある予定
- 事務局との連携
- ワーキンググループメンバーの拡大

2020年度の重点方針と重点実施項目

関西支部

2020年度重点方針

- ◆実践に役立つイベントを開催する
 - ・参加比率の高いメーカーエンジニアをメインターゲットとする
 - ・KJ法などのプリミティブな学びを得られるようにする
 - ・実践事例を共有することにより、さらなる実践数の増加を図る
- ◆実践数を増加させる土台として参加者の裾野を広げる
 - ・幅の広いテーマによる関西フォーラムの開催
 - ・参加しやすい無料イベントの開催
 - ・学会発表等による啓発活動の実施
 - ・これまで関係の無かった業界や分野での啓発活動の実施
- ◆未来を見据えコミュニティを広げる
 - ・首都圏以外の地方でのイベントの開催
 - ・子供向けイベントの開催

2020～2022年度中期方針

- ◆地方で独自で活動できる拠点を作り、HCD導入を促進する

2020年度の重点方針と重点実施項目

ビジネス支援事業部

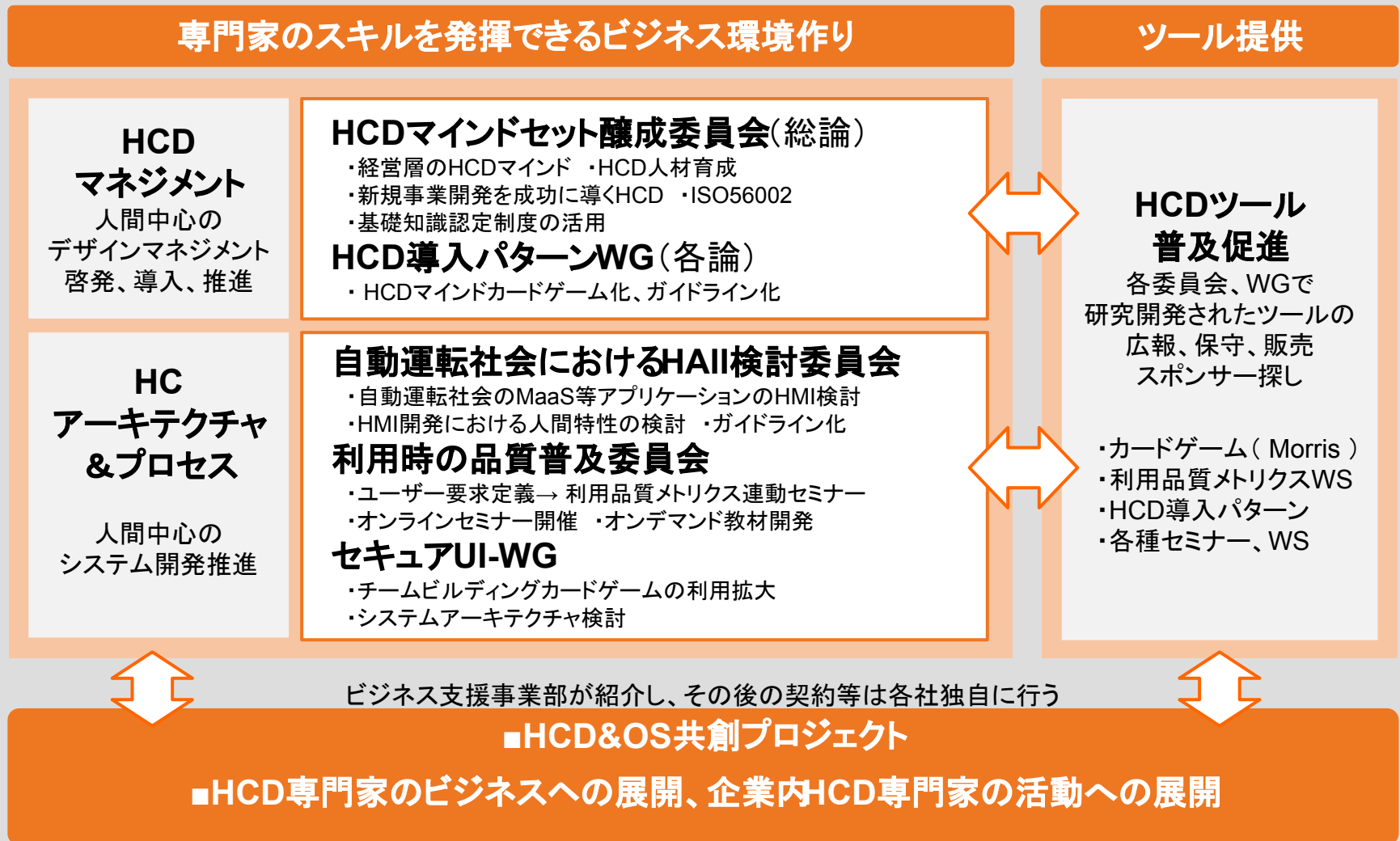
2020年度重点方針

- ◆ 専門家のスキルを発揮できるビジネス環境作りとHCDツールの提供

2020年度の重点実施項目と目標

- ◆ **運営委員会**
 - ・各委員会・WGの活動内容の情報共有、運営状況確認
- ◆ **HCDマインドセット醸成委員会**
 - ・経営層～中間層への提言拡大 ・三菱総研との連携セミナー、シリーズセミナー開催
- ◆ **HCD導入パターンWG**
 - ・カードゲーム化、ガイドライン化
- ◆ **自動運転社会におけるHAI(Human AI Interaction)検討委員会**
 - ・AI社会/自動運転社会におけるサービスアプリケーションのタッチポイント/HMI検討
- ◆ **利用時の品質普及委員会**
 - ・要件定義ワークショップ(UXDQ)～利用品質メトリクス研究開発ワークショップ
 - ・談話会実施(オンライン化)・ISO解説セミナー
- ◆ **セキュアUI-WG**
 - ・チームビルディング支援カードゲーム活用拡大、ファシリテータ養成

ビジネス支援事業部 中期計画 (2020~2022 活動スキーム)



2019年度の重点方針と重点実施項目

専門資格認定センター

2020年度重点方針

- ・ 認定試験
- ・ 更新審査
- ・ 基礎スキル認定制度(検定)の立ち上げ、HCDBOKのリリース

2020年度の重点実施項目と目標

- ・ 矢崎新センター長へスムーズな体制移行
- ・ 新メンバーを加えて活動の安定化
- ・ 基礎スキル認定制度(検定)
 - － HCDBOKリリース、認定試験トライアル、研修カリキュラム、運営企画
- ・ 時代にあわせた資格制度へのブラッシュアップ

中期計画(2020年度-2022年度)

専門資格認定センター

2020年度重点方針

- ・ 認定試験
- ・ 更新審査
- ・ 基礎スキル認定制度(検定)の立ち上げ、HCDBOKのリリース

2020年度の重点実施項目と目標

- ・ 運営の中核人材の確保、事務局の運営体制の強化
- ・ 新メンバー(40代・30代)を加えて次期中核人材の育成
- ・ 新メンバー(20代)を加えて組織活性化
- ・ 基礎スキル認定制度の立ち上げ
- ・ 時代にあわせた資格制度へのブラッシュアップ

2020年度の重点方針と重点実施項目

事務局

2020年度重点方針

- ・理事会・各事業部・認定センター・委員会・WG・SIGの諸活動の継続的なサポート体制を維持する。

2020年度の重点実施項目と目標

- ①個人情報保護法に沿った運営体制の明示と遂行を継続
- ②事務局管理業務および諸活動サポート業務のマニュアル化を促進
- ③諸活動活性化のためのオンライン会議の促進